

南丹市地域創生会議 会議録

日時：平成 30 年 6 月 26 日（火）午後 1 時 30 分～午後 5 時 00 分

場所：南丹市役所本庁 2 号庁舎 3 階 301 会議室

日 時	平成 30 年 6 月 26 日（火）午後 1 時 30 分～午後 5 時 00 分
場 所	南丹市役所本庁 2 号庁舎 3 階 301 会議室
出席者	【委員】 <出席> 窪田好男座長、上條正和委員、神田衛委員、長尾康行委員、浪江典人委員、野々口二三男委員、俣野健二委員、松田育子委員、森田聰委員 <欠席> なし 【事務局】 堀江企画政策部長、中川定住・企画戦略課長、塩邊定住・企画戦略課長補佐、下田定住促進係長、高屋主査 ※各事業に対する質疑応答のため所管課から説明員が出席

1. 開会【司会：事務局】

2. あいさつ

○西村市長

皆さんこんにちは。お忙しい中、出席いただきありがとうございます。

南丹市内の各方面でご活躍される皆さまがお集まりいただいている南丹市地域創生会議は、地域創生の取り組みの検証をいただくだけでなく、南丹市のこれからの方向性についても提言いただけるような素晴らしい場所だと思います。

本日は、地域創生戦略に掲げる 4 つの基本目標の達成に向けて取り組む国の地方創生交付金を活用したそれぞれの事業について客観的に評価・検証いただき、事業に対する積極的なアドバイスやご提言をいただければと思います。

皆さまにお支えいただき、南丹市の地方創生の実現につなげてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

3. 議事

・地方創生交付金事業検証・評価

○事務局

この後の議事につきましては窪田座長にお世話になります。よろしくお願いいたします。

○座長

皆さま大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

地方創生は全国で引き続き取り組まれ、その必要性や成果についても問われるようになっていきます。自治体ごとの方向性や取組具合もある中で、南丹市は交付金の対象事業が27事業と他の自治体に比べて非常に多く、大変素晴らしいことだと思います。その取り組みを将来につなげていくため、事業の評価を皆さまにお世話になるとともに、戦略全体についてもこの機会にご意見をいただきたいと思います。

事前に27の事業について事業評価調書を基に事業の評価と意見をいただきました。本日はそれをまとめた資料がありますので、会議の中でも確認しながら議論して評価を決定していきたいと思います。

それでは基本目標1にかかわる事業から進めてまいります。

○委員

最初にお聞きしたいのですが、地方創生交付金の29年度の予算とそれに対する決算がどれぐらいか、この27事業すべてに交付金が充当されているのかをお聞きしたいと思います。できれば数年間の予算の増減も最初に教えていただきたいと思います。

○座長

説明を事務局からお願いします。

○事務局

平成29年度は地方創生推進交付金と地方創生拠点整備交付金の2種類の交付金をいただき、27の事業を交付金の対象として実施しました。決算の金額は、地方創生推進交付金につきましては充当率が2分の1以内で、全体で72,910,805円を充当し、地方創生拠点整備交付金につきましても充当率2分の1以内で、全体で53,983,980円を充当しています。

活用しました交付金の金額については、29年度が27事業で1億2,680万円、28年度が22事業で1億2,140万円、27年度は21事業で6,160万円という結果になります。

1. ふるさと農業創生支援事業

○座長

進め方の補足ですが、1事業に約10分の質疑応答が配分されています。各事業にはKPI（重要業績評価指標）が設定され、その達成状況が記載されています。そのKPIの達成状況と事業の内容等から事業が有効であったか、そうでないかを判断いただくという流れになっています。

本事業については3名の方が「有効であった」、5名の方が「どちらかといえば有効であった」、1名の方が「どちらともいえない」とされています。それぞれ質疑や意見を出していただき、会議として評価を決定していきたいと考えています。本事業について、質問や意見がありましたらおっしゃってください。

私から、農家民宿の開業数は12件と1年間で特に変化はないように思いますが、開業に至っていないが開業に向けて準備中など、KPIに表れない状況や成果があれば教えてください。

○事務局

昨年の実績は11件であり、1件増加しています。さらにKPIの集計後の現在ではさらに2件増加しており、農家民宿を体験された方がその体験から自ら業を興そうという動きがあると考えています。

○座長

このプログラムに参加された方が起業されたのですか。

○事務局

農村教育体験ということで、1泊の体験旅行を受け入れた方が事業の許可を取り営業を開始されたという実績があります。

○委員

利用者側のニーズとして、農村教育体験であり教育機関が多いとは思いますが、一般の方も含めた利用したいというニーズがなければ農家側が一生懸命されてもなかなか起業に結び付かないと思います。ニーズの掘り起こしをしていかないと難しいと思いますので、その工夫があれば聞かせてください。

○事務局

確かに利用者が増えていかないと経営として成り立たないということは大いにありますので、商工・観光分野との連携が必要になると思います。今後、重点的に検討して事業を伸ばしていくような支援が必要であろうと思います。現在のニーズとしては、インバウンドなど地域で宿泊を体験したいというニーズは増加しています。そのすべてを農家民泊で

宿泊いただくということにはならないと思いますが、今後、力を入れる必要があると考えています。

○座長

「有効であった」か「どちらかといえば有効であった」という方が多いのですが、いかがでしょうか。「どちらかといえば有効であった」という方が多く、「どちらかといえば有効であった」という評価とします。なお、ニーズも見ながら今後、農家民宿の増加と経営の安定に期待したいと思います。

2. 創業支援事業

○座長

本事業は、今年度も引き続き取り組まれているのでしょうか。

○事務局

本年度も9月から事業実施いたします。

○座長

12件の創業ということですが、業種などを紹介いただけますか。

○事務局

飲食業が2件、サービス業、和装、金彩加工、林業のコンサルティングなどとなっています。

○座長

この事業だけでなく目標値は変化していくものと思いますが、目標を上方修正することはあるのでしょうか。

○事務局

前年度参加者が少ないというご指摘があり、周知に力をいれ23名の申込みとなりました。講座の実効性を高める内容とするなど、創業希望者をできるだけ見つけて、支援をしたいと考えていますが、本講座は創業後5年以内の方も対象としており、目標は据え置きしたいと考えております。

○委員

募集の段階で行政から地域の方に情報提供をいただいたことで、今回23名の申込みにつ

ながつたと思います。その中でも講座受講後のフォローなどを行うことで結果に結びついていると思います。

○座長

ありがとうございます。この事業につきましては、7名の方が「有効であった」とされていますので「有効であった」とします。

3. むら・ひと・しごと創生事業

○座長

事前の質問で獣肉活用方針はどこかで公表されたのかという質問がありましたが、お答えいただけますか。

○事務局

委託業務により方針案を作成した段階であり、公表はしておりません。今後、この方針案を参考材料として、農林部局や関係機関と連携しながら方針の具現化に向けた検討を進めていくという段階です。

○座長

以前から獣肉や加工品の販売が道の駅でされていますが、何か新しい取り組みを検討されているのですか。

○事務局

現在も有害駆除で捕獲されたものが市場に出回っていますが、それはごく一部であり、年間千頭あまりの捕獲頭数がある中で、その全てを活用するということまではいかないにしても、今以上に活用できる部分があるのではないかと、新しい仕事づくりにつなげていく余地があるのではないかとということで研究を進めているところです。

○委員

KPIの実績値1はどのような内容でしょうか。

○事務局

この実績値1は本事業の5つのメニューの中のサテライトオフィス誘致事業者等支援補助金を活用し新たにサテライトオフィスを開設された件数になります。

○座長

現在の動きや将来の可能性の有無なども評価の材料になると思いますがいかがですか。

○事務局

継続的に進めているのですが、なかなか起業という形で表れにくい部分もあり、継続できる範囲で進めていきたいと考えています。

○座長

「どちらかといえば有効であった」が4名、「どちらともいえない」と「どちらかといえば有効とはいえない」が5名で、KPIの実績があがっていないことから「どちらともいえない」とします。なお、この事業で地域の取り組みは重要であります、その中から業を生み出すということができるとか、課題はないのか検証いただきたいと思います。

4. 南丹市販路開拓支援事業

○座長

必要性があり、効果的な取り組みではないかという意見も皆さまから頂いていますので「有効であった」ということにします。

5. 空き家流動化対策事業

○座長

事前の質問で何人移住があれば何年度には増加に転じるなどの数値目標はあるのかということがあります、いかがでしょうか。

○事務局

人口の増減については、さまざまな要因があります。出生や死亡などのいわゆる自然増減と転入転出の社会増減を合わせたものということになりますので、単純に移住者の数だけが影響しているわけではないと考えています。人口の数値目標については、人口ビジョンでお示ししている数値を基本としていますが、少子高齢化が進む中で自然減を止めるということは難しい状況で、本事業では空き家を活用した移住者の獲得により社会増を増やすとともに、放置空き家を生まないということを目指して実施しております。

○座長

30件の空き家が活用されたことは意味があると思います。報奨金を交付するということが結果につながっているのか分析されていれば教えてください。

○事務局

報奨金は空き家バンクへの新規登録や新規活用に至った場合に行政区にお支払するものですが、地縁団体の強みである所有者とのつながりを活かした地域の取組機運を高めようということで実施している制度です。15件という実績は制度として、行政区が積極的に活動された結果であり、十分成果があったと考えています。

○座長

報奨金がどの程度、効果として効いているのかという点で、報奨金が地域の励みになっているのかという点ではどうですか。

○事務局

これまで地域にある空き家の掘り起こしがあまり進んでこなかったということもありましたので、この事業を契機に地域から所有者の方に声を掛けていただいた結果が実績につながっていると考えています。

○座長

報奨金は地域の活動のきっかけになっているということですね。本事業は全員一致で「有効であった」とします。

6. 定住促進サポートセンター運営事業

○委員

KPIの数値で教えていただきたいのですが、移住相談件数195件、空き家の活用件数30件とあるのですが、それぞれの数字がリンクしているのか、例えば195件の相談があった中で30件なのか、それとも別々で移住相談件数は195件、空き家の活用は30件であったのか。もし数値がリンクしているのならば195分の30という数字は一般的に見て高いのかをお聞きしたい。

○事務局

定住促進施策を南丹市が本格的に取り組んでからまだ歴史が浅いのですが、平成27年度の移住相談件数110件に対して空き家バンク内での物件活用件数は15件ですので10分の1程度が活用件数となります。平成28年度は124件に対して14件、平成29年度は195件に対して30件ということで必ずしもリンクはしていません。今後、傾向についても分析をしていく必要があると思いますが、移住相談は相談者の一生の問題であり、さまざまな状況の中で判断されますので、数値的に必ずしもリンクするということにはならないと思います。

○委員

移住相談件数はかなりあるのですが、やはり主に農村ですか。都市部ではなく農村でしょうか。

○事務局

傾向的に多いのは、例えば美山などの過疎地というよりも、日吉や園部などがニーズとして必然的に高くなっているところです。

○委員

特に中山間地域の農村や集落というのは大変な状況になってきているわけで、移住相談があっても、どの集落に空き家があり、受け入れ体制ができているのか。例えばこれからもっと農業をする人を受け入れたいわけですが、集落や農家組合などの組織が土地を貸したり農機具をリースで貸し出すといったような地域の受け入れや、受け入れる地域を選定し地域との連携を図るなど確実に受け入れられる体制にしないといけないと思います。地域が理解しないと受け入れができないので、地域が協力体制をつくれるような取り組みをお願いしたい。

○座長

以前、京都移住コンシェルジュにお話を聞く中で、京都府が指定する移住促進特別区域として、南丹市では12の地域が指定されていると伺いましたが、それらの地域と連携はしているのですか。

○事務局

委員ご指摘のとおり、南丹市の中でも人口が増加している地域や減少している地域があります。今、地域をどのように残していくかということ考えたときに、最も周辺の地域の人口が少ないという大変な状況ですので、市内一律で同じ施策を講じるということではなく、特に人口減少が著しい地域、高齢化の進んでいる地域を旧小学校区単位で移住促進特別区域に指定いただき、他の地域では受けられない空き家改修費に対する補助金であったり、京都府から委嘱を受けた田舎暮らしナビゲーターが各地域に配置されたり、地域で地域振興会的な組織が立ち上がっています。ナビゲーターや地域組織と連携を密にしながら、その地域にとって必要な施策を地域の皆さんとともに考えて進めていきたいと考えています。

○座長

本事業については、「有効であった」が7名、「どちらかといえば有効であった」が2名

ですので、「有効であった」とします。

7. 移住促進事業

○座長

情報発信ツールを整備した地域への移住者の人数や情報発信ツールに対する反応を教えてください。

○事務局

地域ごとの具体的な数字は持ち合わせておりませんが、移住定住については、一つの事業で即効果が得られるものではなく、単一の事業でどれだけ効果があったか判断することは少し難しいと思います。地域創生戦略に示している様々な施策を展開することで、それらの事業が呼び水や追い風になり、最終的に移住者や定住者の増加につながると考えております。

○座長

情報発信ツールを整備した地域は特定されていますので、できれば整備されたツールをご覧になった方の声を何らかの形で共有いただければと思います。

では、本事業については5名の方が「有効であった」、4名の方が「どちらかといえば有効であった」とされていますので「有効であった」とします。

8. シティプロモーション推進事業

○委員

達成状況について、認知度・知名度を向上させ南丹市への移住相談件数が増加しているということでKPIの達成度は高く効果があると考えますが、私の感触では「南丹」という認知度・知名度はそれほど高くないと思っていますので、一度アナログな手法ですが「南丹」の認知度・知名度の調査を実施してはどうでしょうか。

○委員

事業内容も南丹市をアピールする取り組みであり、応援したいと思います。しかし、ケーブルテレビは南丹市内でしか視聴できませんし、市営バスも市内を走行していますので、南丹市への人の流れを増幅させるという基本目標であれば、作成したテーマソングなどを市外でアピールする場や仕掛けを考えていただければと思います。

○座長

ある市では午後 5 時の時報で市のテーマソングを流すなどしています。様々な手法で市内外に発信できる仕組みを工夫してもらいたいという意見ですので、考慮いただきたいと思います。

事業の評価としては、5 名の方が「有効であった」との評価であり「有効であった」とします。

9. 観光イベント振興事業

○座長

事前の評価では「有効であった」が最多です。ご意見がありましたらお願いします。

ご意見がありませんので「有効であった」とします。

10. 観光宣伝事業

○座長

事前の意見では市営バスのインバウンド客対応をという意見がありますが、これについて何かありましたらお願いします。

○事務局

市営バス担当課に対しては、インバウンド客の利用環境を改善するためにバスの行先表示の改善などをお願いしているところです。

○委員

バスの関係であれば、英語の音声案内や画面表示の有無が気になります。

○座長

本事業は「有効であった」が 5 名、「どちらかといえば有効であった」が 3 名、「どちらかといえば有効とはいえない」が 1 名ですので「有効であった」とします。

11. 観光協会事業

○座長

意見等で南丹市全体としての観光協会の設置、外国人観光客への対応や消費単価のアップというような従前からの課題が指摘されていますので、意識して引き続き検討いただきたいところです。

本事業については、「どちらかといえば有効であった」が 5 名ですので「どちらかといえ

ば有効であった」とします。

12. 観光動態調査事業

○座長

動態調査によるデータ収集は、根拠に基づく政策形成が求められている中で大事なことであり、情報の分析は重要という意見と、動態の調査が不十分ではないかという意見があり、評価が分かれているところですので意見等をお願いします。

○委員

交付金事業の中で最も事業費が高額だと思いますが、意見が分かれているのはおそらく、スマートフォンのアプリを活用した人のみの動態調査になっていることがどうなのかということではないですか。

○委員

「どちらかといえば有効であった」とだと思います。やはり、どういう方がどういう形で観光に来られているのかということを知る必要があると思いますし、その方がどこに宿泊され、どちらに行かれたかということを知ることにより、それに対応した施策を実施できると思いますので、今後も続けていただければと思います。

○委員

私もデータ分析は大切だと思いますので、ビーコンを利用するという手法は今後も工夫しながら継続していくことが必要だと思います。どういう方がどのような手段で来られているのかということをはっきりしておかないと、観光客一人あたりの消費単価の向上のためにどのような商品であれば消費されるのかといったことを検討ができないなど、データを積み上げて分析することは重要ですので、動態調査は必要であると思います。

○座長

「どちらかといえば有効であった」という発言もあり、「有効であった」という評価の方もおられますので、「どちらかといえば有効であった」とします。

13. 山陰本線南丹市広告宣伝事業

○座長

本事業については、市内の JR 駅の利用者数など KPI では測りにくい情報について追加がありましたら説明をお願いします。

○事務局

JR 駅の利用者数は平成 28 年度分が最新のデータとなります。

○委員

広告に QR コードは掲載されているのですか。

○事務局

QR コードは掲載されていません。

○座長

本事業は「有効であった」と「どちらかといえば有効であった」が 4 名ずつと分かれています。鉄道の利用促進は必要ですので「有効であった」とします。

14. 各種イベント等開催事業

○座長

ひよし水の杜フェスタと美山ふるさと祭りの 2 事業ともに台風で中止となったということですが、地域での必要性もあり効果もあることから「どちらともいえない」と思います。

これらのイベントは秋の開催が良いのですか。ふるさと祭りは秋の収穫に関連すると思いますが、水の杜フェスタは台風シーズンでない時期に開催すれば確実に開催できるのではないかと思うのですが。

○事務局

イベント関係は秋に多く開催されており、他のイベントの日程を把握したうえで開催日を設定しております。近隣でイベントがあると集客が減少するという問題がありますので、10 月に開催しています。

○座長

本事業については、やむを得ない必要な経費に対する支払いという説明は理解できますので「どちらともいえない」とします。

15. スプリングスひよし彩花菜園整備事業

○座長

事前の意見で次事業の道の駅京都新光悦村の事業と類似するのではという意見について、

補足はありますか。

○事務局

道の駅に来られる消費者は、情報収集しながら安価で品質の良い商品を求めておられます。スプリングスひよしの朝市についても、大阪などから野菜やお米を求めて定期的に来訪されています。それぞれの朝市で特徴を出していくことが消費者へのPRにつながると考えています。

○座長

本事業は5名が「有効であった」とされていますので「有効であった」とします。

16. 農業関連施設整備事業【道の駅 京都新光悦村】

○座長

本事業については「有効であった」が4名、「どちらかといえば有効であった」が4名であり、追加のご意見を伺いたいと思います。

○委員

私も道の駅に野菜を出荷していますが、増築とともにリニューアルされたことにより取扱商品も増加してにぎわっています。

○座長

「どちらかといえば有効であった」との評価も多いですが、本事業は「有効であった」とします。

17. 農業関連施設整備事業【八木農村環境公園氷室の郷】

○座長

施設の利用者数の増減はどのようになっていますか。

○事務局

リニューアル後に規模の大きいイベントを実施して地域の方々にも紹介していますので、利用者は増加しています。

○座長

こちらは「どちらかといえば有効であった」が6名であり会議の評価も同様とします。

18. スポーツ拠点づくり推進事業

○座長

こちらも「有効であった」が6名であり「有効であった」とします。

19. 実践型人材育成事業

○座長

本事業については14名がセミナーを受講されましたが、実際に起業されたのは2名とKPIの目標値には達していないこと、女性の起業に対する取り組みをどのように評価するのかだと思いますがご意見はありますか。

○委員

起業するというのはパワーも時間もかかることなので、私は最終年である30年度で判断したいと思いました。また、多くの方が受講されていますので、今後、多くの方が起業していただければと思います。

○座長

「どちらかといえば有効であった」か「どちらともいえない」で分かれています。どちらかという「どちらかといえば有効であった」とあると考えますが、よろしいですか。では「どちらかといえば有効であった」とします。

20. 小学校跡施設利活用推進事業

○座長

地域活性化センターの取り組みを知りたいという事前の意見がありますので、先進的な取り組みなどがありましたら紹介いただけますか。

○事務局

夏祭り、とんど祭り、登山大会、文化祭や収穫祭など地域のイベントに活用されている施設もありますし、中庭等の自分たちでできる範囲を自ら改修をされている施設もあります。また、会報誌を年間通して発行されている場所もあります。

○座長

「どちらかといえば有効であった」との評価の方が多く、「どちらかといえば有効であっ

た」とします。

21. 小学校跡施設管理費

○座長

管理費として市が支出しているのは全額又は一部のいずれでしょうか。

○事務局

管理費については、光熱水費、施設の点検代、管理人の賃金など 1 年間分の管理費の全額を支出しています。

○座長

小学校として使用していた時よりも管理費は減少しているのでしょうか。

○事務局

小学校で使用していた時よりは稼働が少ないので減少しています。

○委員

先ほど廃校となった小学校は 11 校とおっしゃいましたが、そのうち 4 か所が地域活性化センターとして活用されていますが、他の 7 か所はどのような状況なのか、地域活性化センターにつながらない状況があるのであればその理由も教えてください。

○事務局

29 年 4 月から 4 施設、30 年の 4 月から 3 施設の計 7 施設が地域活性化センターとなっています。残りの施設については、2 施設が立地場所の地形などの課題があります。2 施設については、地元地域で利活用の方針について協議を進めていただいております。協議が整いましたら新たな活性化の拠点となる予定です。

○座長

この事業についても先の事業と同様に「どちらかといえば有効であった」との評価の方が多く、「どちらかといえば有効であった」とします。

22. 集落活性化支援事業

○座長

事前の質問として激変緩和事業の説明をということがありましたのでお願いします。

○事務局

この激変緩和事業というのは、「集落活性化支援事業補助金」の前身で24年度から27年度に実施しました「誇りと絆支援補助金」の交付を受けていた地域に対する激変緩和措置として、3年間で徐々に交付金額を減額する内容になります。

○座長

この事業は「有効であった」が2名、「どちらかといえば有効であった」が4名、「どちらともいえない」が2名、「どちらかといえば有効とはいえない」が1名ですので「どちらかといえば有効であった」になると思いますがいかがでしょうか。

○委員

実施件数がKPIになっていて、その半分以下しか達成していないので、少し厳しめに評価したのですが、皆さんいかがでしょうか。

○座長

これまでの考え方からすれば「どちらかといえば有効であった」という方が4名であり、ご意見もありませんので「どちらかといえば有効であった」とします。

23. 障害者就労支援ネットワーク運営事業

○座長

本事業については、KPIでは測り難いところがありますが、会議の回数やパンフレットの更新数を記載いただいていますので、内容は把握できると思いますが、ご意見はありますか。

「有効であった」という方が6名であり「有効であった」とします。

24. 障害者団体活動支援事業

○座長

特段の意見がなければ、「有効であった」という方が多いので「有効であった」とします。

25. 特別支援教育推進事業

○座長

特別支援教育支援員の18名は前年から増加しているのですか。また、増加したことによ

り支援内容が向上したなど補足の説明はありますか。

○事務局

単に人数を増加させたということではなく、支援を必要とする児童・生徒に合わせた形での配置となりましたので、よりきめ細かな事業が実施できたと考えています。

○座長

本事業についても「有効であった」との評価が多く「有効であった」とします。

26. 間伐材出材奨励事業

○座長

KPIは森の京都関連事業実施数となっていて、効果を測り難いものになっていますので、少し情報をいただきながら判断したいと思います。

1 m³あたり 300 円以内の補助金がインセンティブとなっているのかという点について、林業をされている方の受け止めとか、担当者の感触などを教えてください。

○事務局

南丹市内から最も遠方で舞鶴市、近くでは南丹市内の加工場というように材の種類により運搬される先は異なります。300 円の補助でも運搬コストの軽減につながっていますので、間伐の促進に寄与するものと考えています。

○座長

委員の中にも、事業としては良いが 300 円は少ないのではないかという意見もあったのでお聞きしましたが、どのように受け止められているのか、実際にどのように機能しているのかということを次の機会には伝えていただければと思います。

評価は 6 名が「有効であった」とされていますので「有効であった」とします。

27. 森の京都推進事業

○座長

海の京都、森の京都、お茶の京都の取り組みのうちの「森の京都」について、引き続き事業に取り組んでいるということです。こちらも「有効であった」という方が 6 名ですので「有効であった」とします。

4. その他

○座長

この会全体をとおしてなど、皆様から一言ずつ頂戴したいと思います。

○委員

実際に実施されている事業が本来の目的に沿っているのか、交付金を使った効果はどうか。この地域創生というのは地域の人口が減少する中でいかに定住者を増やすかということが目的ですが、これだけの交付金を使ってどれだけの効果があるのかということをお願いです。実際に効果が上がっているところでは金銭的に支援しているところが多いと思いますので、移住者に対する金銭的支援が必要であると思います。

○委員

私は摩気地区在住なんですが、摩気地区も摩気高山の郷振興会が組織され、農家民泊の受け入れや集落支援員さんの活躍などを聞いています。空き家情報を総括されている方もおられて、毎年1、2件の移住者があり、若い方が多く、いろいろと頑張っておられるようです。

○委員

全体的には「どちらかといえば有効であった」、「有効であった」とまとめられたと思っています。一番大切なのは事業をさらに促進していくことであると思っています。

他の事例で、綾部市では空き家バンクを利用したモデル事業として介護資格を持つ方に住んでいただき、地域の方に対し介護・医療等の拡大をしていくという事業があるようで、南丹市でもそのような事業の推進ができないか今度勉強に行ってきます。今後も南丹市が希望を持って安心して働けるような地域に発展することを期待して、意見とさせていただきます。

○委員

私は、事業所を増やすことが重要であると思います。事業所を増やすことで人が定住し、人口が少しでも増えていくということに寄与するのではないかと考えています。私も摩気地区に住んでいますが、地域が元気に活動されています。摩気高山の郷振興会で地域の課題なり風習を掘り起こして一冊の冊子にまとめられ、後世に伝えようという取り組みがなされるなど大変立派であると思います。できれば他の地域でもこういった取り組みがなされればありがたいと思います。

○委員

地方創生の取り組みはパワーもかかることであるし、時間もかかることであると思います。その中で、継続していけば核となる施策が生まれて、その核となる施策にパワーをかけることで、選択と集中ではないですが、光が見えてくるのではないかと思います。何事も継続していくことが重要ですので、それぞれの事業の目的、ゴールを目指して引き続き活動していただき、その中から良い事業をさらに大きくしていくようお願いしたいと思います。

○委員

評価の判断材料として KPI の数値・内容等の達成度で判断されていましたが、目的というのはそこではないと思います。あくまで交付金であって交付金は将来続く保証はないので、例えば道の駅京都新光悦村や氷室の郷の改修、間伐材の出材奨励事業などに支出し需要を増やそうという取り組みであれば、並行して少子高齢化が進む中で各種の農産加工技術を若い世代につなげていくことが必要ですし、間伐も山が荒れている中で山を手放す人も多いと聞きますし、今回の事業をきっかけに地域が自立していける形に持っていかれるということが大切であると思います。それは行政だけでなく地域も率先して動かないといけませんので、地域の自立につなげる一つのきっかけということで目標を先につなげてもらいたいと思います。

あと、厳しいことを言うと、南丹市だけでなく他の地域でも取り組んでいる事業が多いと思います。他地域との競争を考えると、他の地域と同じことをやっているのであればその中から南丹市が選ばれることはなかなか難しいと思います。南丹市として他の市でも実施しているが南丹市はこういう成果をあげているとか、他の市で実施していない内容などそういう視点でこれから取り組んでいただきたいですし、期待したいと思います。

○委員

最初に感じることは評価調書の記載内容が統一されていないと思います。詳細に記載している事業と、未記入の箇所が多い事業もあるし、記述内容もわかりにくいです。

現在、人口減少が続き移住者獲得の競争ということで、移住者に対する金銭的支援を行う事業は効果はあると思いますが、それだけでなく子育て支援や医療についても若い世代が移住先を選ぶ一つだと思います。

また、交付金を活用して積極的に活動して頑張っている地域を支援していき、他の地域から注目されるような地域として持ち上げていけばいいと思います。

南丹市の知名度を上げるということも大切だと思うので、頑張りたいと思います。

○委員

南丹市の厳しい財政状況の中で、国からの交付金はできるだけ獲得すべきと思っています

すし、施策に生かしていただきたいです。定住促進の取り組みにより転入者数は増加していますが、それ以上に転出者数が多く若い人が転出しているという現実を見て、その原因が何であるかを踏まえてこれからのまちづくりをしていかなければならないと思います。

働く場や教育など若い人が南丹市に住みたいと思えるように、地域の方と協力して今ある資源を活かしながらまちづくりをしていかなければならないと思います。

○座長

委員の皆さんからご意見をいただきましたので、意見に対し事務局からお願いします。

○事務局

多くのご意見をいただきありがとうございます。評価をいただいた事業につきましても「有効であった」、「どちらかといえば有効であった」という評価をいただきありがとうございます。なお、厳しいご意見などもいただきましたので、そのご意見については真摯に受け止めて、今後の事業を考えるうえで参考にさせていただきたいと思います。

また、定住促進に関してご意見をいただいた「地域」というのは一つのキーワードになるかと思います。特に危機感をお持ちの地域では活動が活発になりますし、行政としても連携しながら取り組みを進めていく必要があると思います。

KPI については、考え方や設定の仕方に少し課題があるとのことのご意見がありましたので、その点も検討していかなければならないと思います。それから、子育ての関係では取り組みが弱いのではというご意見もいただきましたが、もちろん若い世代の夢をかなえるということは地域創生戦略の4つの目標の一つに掲げて取り組んでいます。本日評価をいただいた事業は国の交付金の交付を受けた事業が対象ですが、子育て関係の事業は個人給付など交付金の対象となりにくい内容が多く、子育ての取り組みはしていますが、本日の評価の対象となっておらず、他の財源を活用して事業を進めているということをご理解いただければと思います。

本日いただきましたご意見を参考に、南丹市の地域創生をさらに推進できますよう努めて参りますので、引き続きよろしく願いいたします。

○座長

長時間にわたりお世話になり、ありがとうございました。委員の皆さんから多くの貴重な意見をいただけたと思います。中でもご意見にもありました、27事業で1億2,680万円という交付金額は大変すばらしいと思います。一方で多くの取り組みがなされていますが、その事業費の半分は市が自ら支出している金額であり、今後、財政的に心配するという面もあります。

地方創生については、3年間実施してきた中から直接給付が良いのかどうかは確たる答えは持っていないのですが、そろそろ集中するような何かを見い出されても良いと思います。

し、途中のご発言にもあったように、南丹市は新しいことに取り組んでいる、注目すべきことに取り組んでいるなど、南丹市の名が常に呼ばれるということは価値のあることで、人を呼ぶことにつながるのだと思いますので、そのような注目されるような事例が出てこないだろうか、それを探ってもらえないかという意見も今日の会議で出された意見です。

評価については、KPI のみで効果を測れる事業もありますが、測れない事業もありますので、事業ごとに事業評価調書の記載内容を工夫いただき、写真の添付や実績値の記載をいただくほか、当該事業は何を狙いとして実施し、どのような成果をあげたのかということが的確に判断できるよう記載いただかなければ判断しがたいと思いました。

今後も本日の委員の皆さまからのご意見を活かしていただき、地方創生の取り組みを進めていただきたいと思います。

5. 閉会

○事務局

本年度の会議は今回限りの予定ですが、南丹市の地方創生の取り組みについて引き続きご指導いただきますようお願いいたします。本日は長時間ありがとうございました。